

実施報告書
第 33 回ジュニアヨット国際親善東京レガッタ
ミキハウスカップ東京 2023

実行委員長 野村 泰造
レース委員長代理 塩野崎 英二

はじめに

2023 年 5 月 21 日（日）、第 33 回ジュニアヨット国際親善東京レガッタ（ミキハウスカップ東京 2023）を、昨年に引き続き神奈川県立葉山港にて開催致しました。

特別協賛を「三起商行株式会社（ミキハウス）様」に頂いて、スポーツ庁、外務省、公益財団法人日本セーリング連盟（以下 J S A F）の後援を頂きました。

2 回目の相模湾、神奈川県立葉山港での開催という事で、NPO 法人神奈川県セーリング連盟(以下 KSAF という)の皆様と葉山港で活動されている葉山町セーリング協会の指導者・保護者の皆様の絶大なご協力を頂いて無事に大会を開催出来ましたことにまず御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染防止の為に制約が緩和され、日本全国でヨットを含めたあらゆるスポーツ大会が感染前の通常の状態で開催出来るようになりました。J S A F、スポーツ庁の指導に沿った大会運営マニュアルに従って、JJYU、KSAF、葉山町セーリング協会の 3 者で入念に準備を行い、継続開催出来ました。

参加数は、昨年の 13 クラブ 98 艇（OP 級初級者 20 艇、OP 級上級者 54 艇、ILCA4 6 艇、国際 420 級 8 艇）（選手 106 名）とほぼ同じで、14 クラブ 91 艇（OP 級初級者 21 艇、OP 級上級者 49 艇、ILCA4 3 艇、国際 420 級 12 艇）（選手 97 名）のエントリーがありました。クラブの指導者・保護者 96 名に運営役員・委員 50 名と総勢 243 名参加の大会となりました。

受付にて本年もクラブ毎に参加賞として例年よりグレードアップしたミキハウス様提供の記念品とポカリスエット 500ml のボトルをお渡ししました。



神奈川県立葉山港



開会式

8 時 30 分より開会式を行ないました。

開会式は伊藤雅宣 JJYU 副会長の開会のご挨拶から始めました。

続きまして株式会社ミキハウス様を代表して須長由季様より選手に対して力強い応援のお言葉を頂きました。

開会式に引き続き全体と A 海面のレース運営について京黒レース委員会副委員長から説明があり、B 海面は筒井洋二レース委員会副委員長のもとスキップーズミーティングが手短に行われました。



開会式 葉山港管理事務所前で



伊藤雅宣副会長のご挨拶



株式会社ミキハウス須長由季選手ご挨拶



A 海面スキッパーズミーティング



B 海面スキッパーズミーティング



出艇

ヨット体験試乗会と国際親善

日本在住の外国の子供たちにミキハウスカップ東京のレースに参加して欲しいと願い、在日外国大使館、領事館、外国人学校、インターナショナルスクールに呼びかけていますが、ヨットレースに参加出来る子供たちはなかなか集まらない状況です。そこで、日本在住の外国の子供たちと家族に集まって頂いて、ヨットのセーリング体験をして貰い、ヨットに興味をもって貰おうという体験試乗会を毎年企画し、実施して来ました。

本年も日本在住の外国の子供たちと家族に集まって頂いて、ヨットのセーリング体験を通じてヨットに興味をもって貰おうという体験試乗会を実施しました。

葉山町セーリング協会保護者のご協力で Saint Maur International School、Yokohama International School、葉山小学校、立野小学校、本牧中学校等に声をかけて頂いて 30 名の外国の子供たちが来場され、葉山港と葉山マリ

ーナに係留、活動している大型クルージングヨット 4 艇(Luna, Le Soleil, NADIEN, LIBRANS)に分乗して、ミキハウスカップ東京のレース観戦と応援、クルーザーによるセーリングを楽しんで頂くことが出来ました。

体験試乗会を楽しむ子供たち



レース

OP 級上級者クラス、ILCA4、国際 420 級は 3 レースで終了となったものの、OP 初級者クラスは 6 レースを実施出来ました。

OP 級初級者クラス

朝方の北東の風が想定より早く南に代わりその後 200° から 230° で安定しました。

風は 2-3m/s と微風でしたが各レースともほぼターゲットタイムの 20 分で終了、初級クラスの選手としては十分レースを楽しめたかと思います。

レースは午前中 3 レースの後、昼食休憩で帰港し午後からも 3 レースを行いました。

午前中はスタートラインを長めに設定しましたが、前提がスタート時ライン迄の水がかなり空いていることも考慮し午後は距離を縮めてライン設定をしたところ積極的にジャストスタートを目指す選手が多く見受けられました。最終レースだけですが、ゼネラルリコールで再スタートとなりました。

レベルの違いがある為レースの運営上、コーチボートには他のチームの選手へも助言をお願い致しました。

葉山町セーリング協会の方々の適切な運営で、滞りなく 6 レースができましたこと深く感謝申し上げます。

また、来年子供たちの成長を見ることが今から楽しみです。



OP 級初級者のスタート



スタート直後



上マーク回航前のデッドヒート



OP 級上級者クラス

【第 1 レース】

9時過ぎから風が吹き始めたので、9時15分D旗を掲揚し陸上待機していた全艇が出艇し、レース海面に全艇が集合したことを確認し、SI通り国際420級、ILCA4クラス、OP級上級者クラスの順でスタートしました。

潮の影響か、スタート直前にラインを超えUFDとなった選手が数人おりました。
真夏のような晴天の中、弱い風で30分～50分のレース時間で第1レースを実施しました。

【第2レース】

スタートは、国際420級、ILCA4クラスはオールクリアでスタートを切ってゆきましたが、OP級上級者クラスは潮の影響もあり、最初のU旗でのスタートはゼネラルリコールとなり、2回目のスタートは黒色旗を使いました。

一般的に午後になるにつれて風力が上がってくると想定していましたが、思ったほどシーブリーズが入らず、レーザー4.7はチャーリーを上げて、マーク間を短く設定し直しました。

時間的に、全クラス最終となる第3レースのスタートが出来るように、短めのコース設定としました。

【第3レース】

海上は気温が上がりすぎたこともあり、思ったように風力に上がってきませんでした。時間内に3レースをスタートさせるためには全クラスのスタートをオールクリアで完了するため、国際420級を13時40分にスタートし、ILCA4クラスを13時46分、OP級上級者は最初から黒色旗を準備信号で使ったので、13時59分にスタートしてゆきました。

風力は一時的に5～6m/sになる場面もありましたが、風の腰が弱く、総じて4m/sの風でした。

レース委員会信号艇（レース委員会京黒副委員長）の好判断もあり、全クラスとも3レースを終了することが出来ました。



OP 級上級者のスタート



下マークの攻防



フィニッシュに向けたデッドヒート



トップフィニッシュ



国際 420 級のスタート



スタート直後のデッドヒート



フィニッシュに向けた下マーク回航



トップフィニッシュ



ILCA4 クラスのスタート

成績

クラブ対抗レース

- 優勝 葉山町セーリング協会
- 2位 横浜ジュニアヨットクラブ
- 3位 江東区立小中学校セーリング部



クラブ対抗レース優勝クラブ 葉山町セーリング協会代表者

OP 級初級者クラス

1位	清水 優太	横浜ジュニアヨットクラブ
2位	林 風花	葉山町セーリング協会
3位	安彦 昇哉	江東区立小中学校セーリング部
4位	窪田 柚希	江の島ヨットクラブジュニア
5位	根岸 渚沙	葉山町セーリング協会
6位	稲葉 陸斗	葉山町セーリング協会



OP 級初級者上位入賞者

OP 級上級者クラス

1位	中田 航誠	江の島ヨットクラブジュニア
2位	岩波 将吾	江の島ヨットクラブジュニア
3位	角森 未岬	海陽海洋クラブ
4位	西村 航洋	江の島ヨットクラブジュニア
5位	前田 海悟	横浜ジュニアヨットクラブ
6位	秋田 海斗	江の島ヨットクラブジュニア



OP 級上級者上位入賞者

ILCA4

1 位	中島 拓海	江の島ヨットクラブジュニア
2 位	島田十輝成	YMFS ジュニアヨットスクール葉山
3 位	宇仁航士朗	YMFS ジュニアヨットスクール葉山



ILCA4 上位入賞者

国際 4 2 0 級

1 位	西田 帆七/青山 若生	葉山町セーリング協会
2 位	岩佐 忠直/鈴木 創太	逗子開成高校
3 位	工藤 聡太/山本 育海	逗子開成高校

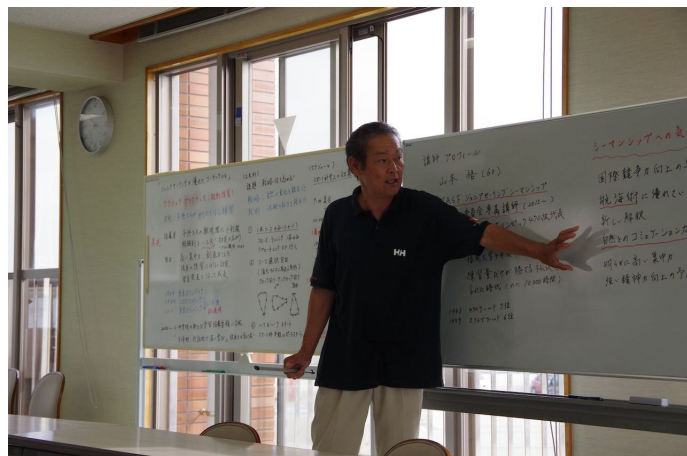


国際 420 級上位入賞者

講習会

15:20 「ジュニアセーリングの優れたコーチングとは」"アクティブプラクティスによるコーチングがジュニアセーラーの学びの発想、自主性を呼び覚ます!"というテーマで保護者、コーチ、クラブ代表者の方を対象に JSAF ジュニアセーリングシーマンシップアカデミー専属講師山本悟様より 40 分の予定のところ参加者の熱心な質問や意見があり延長、約 1 時間の大変有意義な講習会となりました。

講師の山本悟様には今後も JJYU の大会にて講習会を開催願えればと思うような、指導者にとって非常に参考になる講習と感じました。



懇親パーティー・表彰式

16:00 懇親パーティー・表彰式は予定より若干遅れの 16:30 より始めることが出来ました。

成績発表とレース講評はレース副委員長筒井洋二 JJYU 常務理事より下記の通り頂きました。

「コロナ禍は開けましたが、練習も儘ならなかった時期もあったので皆さん全体としては練習不足だったと思います。今日 1 日を通して弱風域でのレースとなりました。心身ともに万全の準備でレースに臨むことが出来るかが良い結果を出すカギになったのではないかと感じました。選手の皆さんが更なるステップアップをし、来年のこの大会でお会いできることを期待しております。」

葉山町セーリング協会の保護者の方々のご尽力によりビュフェ仕様の中華料理を味わいながら和やかな表彰式となりました。皆様の協力により懇親パーティー・表彰式もコンパクトかつスピーディーに進める事が出来ました。



表彰式前 懇親会食事を味わいながら歓談中



OP 級初級者、上級者優勝者にカップを渡すミキハウス須長由季選手



レース副委員長筒井洋二 JJYU 常務理事レース講評



最後に

毎年特別協賛を頂いている三起商行株式会社（ミキハウス）様、協力を頂いた各団体、企業の皆様と NPO 法人神奈川県セーリング連盟、神奈川県立葉山港のスタッフの皆様、葉山町セーリング協会の指導者・保護者の皆様のご協力に改めて感謝と御礼を申し上げます。

以上